

平成 31 年 度

**福岡女子大学大学院人文社会科学研究科
言語文化専攻・社会科学専攻
【博士後期課程】
案 内**

- (付) 平成31年度福岡女子大学大学院人文社会科学研究科
言語文化専攻・社会科学専攻【博士後期課程】
学 生 募 集 要 項
(一般選抜・社会人特別選抜・留学生特別選抜
・福岡女子大学修士課程修了者特別選抜)

公立大学法人
福岡女子大学

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号
電話 (092) 661-2411(代表)
URL <http://www.fwu.ac.jp/>

目 次

I	福岡女子大学の沿革	1
II	福岡女子大学大学院人文社会科学研究所 博士後期課程のアドミッション・ポリシー	1
III	福岡女子大学大学院人文社会科学研究所 博士後期課程の構成と教育体制の特徴	1
1	構成	1
2	教育体制の特徴	2
3	履修方法と修了要件	3
4	社会人の入学について	3
5	指導教員の研究領域と主な研究内容	4
6	講義等の内容	5
7	交通案内	19

(付) ○ 平成 31 年度福岡女子大学大学院人文社会科学研究所言語文化専攻・社会科学専攻
【博士後期課程】学生募集要項（一般選抜・社会人特別選抜・留学生特別選抜
・福岡女子大学修士課程修了者特別選抜）

- 入学願書、受験票
- 研究志望調書様式
- 在職期間証明書
- 入学考查料振込依頼

I 福岡女子大学の沿革

本学は、大正 12 (1923) 年に、我が国初の公立の女子専門学校として開校された福岡県立女子専門学校(文科、家政科)を母体として、昭和 25 (1950) 年、第二次世界大戦後の学制改革により 4 年制の大学に昇格して福岡女子大学として開設されました。平成 5 (1993) 年に、情報化の進む厳しい時代を生き抜くために「高い専門性」と「鋭い思考力」、さらには「総合的な判断力」を身に付けた学生を養成すべく、教育・研究の充実を図って、大学院文学研究科修士課程(国文学専攻、英文学専攻)が設置され、さらに平成 9(1997)年には、大学院文学研究科英文学専攻博士後期課程が設置されました。

本学の教育目的の特徴は、前身である福岡県立女子専門学校の初代校長小林照明が学生に告げた建学の精神「新時代の男女の機会均等へ第一歩を印する諸姉は、校舎の貧しさに心揺るがすことなく、内面的教養の充実と専心し、理想高くリファインされた淑女として、社会の先覚者として自覚を持って勉学されたい」に示されているとおりです。この精神は現在まで引き継がれ、学則第 1 条に、本学の目的は「広く知識を授け、専門の学芸を教授研究」とともに、「知的、道徳的及び創造的能力を備えた女性を育成し、もって文化の向上と社会の発展に寄与すること」と謳っています。この本学の理念に加えて、平成 20 年 11 月、福岡県は「福岡女子大学改革基本計画」を策定し、時代の変化に柔軟に対応できる豊かな知識と確かな判断力、しなやかな適応力を持ち、アジアや世界の視点に立って、国内はもとより、海外の国や地域において、より良い社会づくりに貢献できる女性の育成のために検討を重ね、平成 23 年 4 月に、新たに国際文理学部を開設されました。

さらに、平成 27 年 4 月に既存の大学院文学研究科を充実・発展させた「人文社会科学研究科」を設置した。このように本学は開設以来 95 年の歴史と伝統をもち、その間に送り出した卒業生・大学院修了生は各方面で活躍し、広く社会に貢献しています。

II 福岡女子大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程のアドミッション・ポリシー

- 1 人間の文化や言語あるいは国際的な経済、政治、社会や企業活動等から生じる問題や現象に関心が高く、自立した研究者としての素養と独創性を有すること。
- 2 研究に対する倫理観を有し、真摯に取り組む姿勢を持っていること。
- 3 研究成果を女性が活躍する男女共同参画型社会の創造のために提案・還元する意欲を有すること。

このアドミッション・ポリシーに基づき、各専攻では以下のような者を募る。

言語文化専攻

- ・ 歴史や言語文化活動に強い関心と研究意欲をもち、自立した研究者を目指す者
- ・ 社会において専門知識を活かし、リーダーとして国内外で文化を発信し広く活躍できる者
- ・ 教育の現場で活躍し指導的立場に立とうとする者
- ・ 生涯を通じて研究者としての研究活動をめざす者

社会科学専攻

現代の国際社会のあり方や企業などの経済活動に強い関心を持ち、国際社会の複雑化する課題解決に意欲がある人を求める。修了後の進路は多様であるが、高度な専門能力を基に次代の女性リーダーとして国際社会での活躍や専門的な研究・実務活動を行うことを期待する。

III 福岡女子大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程の構成と教育体制の特徴

博士後期課程では専攻内に領域を設けず、指導教員と専攻内の教員との緊密な連携のもとに教育や研究指導にあたる。

1 構成

言語文化専攻

○言語文化特殊研究 I A・I B、II A・II B、III A・III B

特殊研究 I A・I B では、修士論文の成果をさらに発展させるために、各自の研究テーマに関連する分野の論文の講読を行い、研究の課題を探索することを主目的とした調査・考察を行う。

特殊研究 II A・II B では、関連する分野の調査研究の成果を取りまとめ、学会等で報告し、博士論文

の構想をまとめる。

特殊研究ⅢA・ⅢBでは、研究の成果を、予備論文審査を経て博士論文として結実させる。

I・II・IIIの後、研究成果を公開審査で発表し広く第三者の評価を仰ぐ。

○言語文化総合演習A・B・C

他分野の教員からも指導を受けることで、各専門分野を相互に連携させながら、研究課題を多角的な視点から深化させて、独創的な手法を用いて研究を進展させる。博士課程の研究成果を複数教員の前で発表し、テーマの選定や手法の理解、まとめ方の批評を受け、研究者としての能力を養う。

○言語文化特別講義A・B・C・D

特別講義は、受講生にもっとも必要と思われる分野の非常勤講師を招聘して、研究を補完し、深化させる内容の講義を行う。

社会科学専攻

○社会科学特殊研究I A・I B、II A・II B、III A・III B

特殊研究I A・I Bでは、修士論文の成果をさらに発展させるために、各自の研究テーマに関連する分野の論文の講読を行い、研究の課題を探索することを主目的とした調査・考察を行う。

特殊研究II A・II Bでは、関連する分野の調査研究の成果を取りまとめ、学会等で報告し、博士論文の構想をまとめる。

特殊研究ⅢA・ⅢBでは、研究の成果を、予備論文審査を経て博士論文として結実させる。

I・II・IIIの後、研究成果を公開審査で発表し広く第三者の評価を仰ぐ。

○社会科学総合演習A・B・C

他分野の教員からも指導を受けることで、各専門分野を相互に連携させながら、研究課題を多角的な視点から深化させて、独創的な手法を用いて研究を進展させる。博士課程の研究成果を複数教員の前で発表し、テーマの選定や手法の理解、まとめ方の批評を受け、研究者としての能力を養う。

○社会科学特別講義A・B・C・D

特別講義は、受講生にもっとも必要と思われる分野の非常勤講師を招聘して、研究を補完し、深化させる内容の講義を行う。

2 教育体制の特徴

各学生は入学時に提出する研究概要書に基づいて主たる指導教員及び副指導教員を決定する。各学生は、指導教員との相談のもと隣接分野の教員の中から1名を副指導教員とする。

言語文化専攻

指導教員及び副指導教員の指導のもとで博士論文のテーマ等を含めた研究計画書の作成を行い、論文構想報告を通じて、3年以内に博士論文提出の権利が与えられる。

指導教員は「言語文化特殊研究」を担当し、博士論文作成に向けて指導を行う。同時に「言語文化総合演習」を通じて、副指導教員に加えて他の関連分野担当教員の研究指導を受ける機会を提供する。

このような教育体制を整えることにより、本専攻では、各学生が言語文化の多様な分野からアドバイスを受けることを通じて、領域横断的な視点を獲得することを目指す。

社会科学専攻

指導教員及び副指導教員の指導のもとで博士論文のテーマ等を含めた研究計画書の作成を行い、予備論文審査の合格を経て博士論文提出の権利が与えられる。

指導教員は「社会科学特殊研究」を担当し、博士論文作成に向けて指導を行う。同時に「社会科学総合演習」を通じて、副指導教員に加えて他の関連分野担当教員の研究指導を受ける機会を提供する。

このような教育体制を整えることにより、本専攻では、各学生が社会科学の多様な分野からアドバイ

スを受けることを通じて、領域横断的な視点を獲得することを目指す。

3 履修方法と修了要件

言語文化専攻

- (1) 博士論文に直結する研究指導科目である「言語文化特殊研究」（必修・半期2単位）ⅠA～ⅢBまでの12単位と「言語文化総合演習A・B・C」（選択必修・半期1単位）から2単位、合計14単位以上を修得し、博士学位論文の審査に合格することとする。
- (2) 博士論文の作成指導については、オリエンテーションその他で適宜行う。

社会科学専攻

- (1) 博士論文に直結する研究指導科目である「社会科学特殊研究」（必修・半期2単位）ⅠA～ⅢBまでの12単位と「社会科学総合演習A・B・C」（選択必修・半期1単位）から2単位、合計14単位以上を修得し、博士学位論文の審査に合格することとする。
- (2) 博士論文の作成指導については、オリエンテーションその他で適宜行う。

4 社会人の入学について

(1) 社会人の受け入れ

生涯学習の一環として、大学を卒業し企業、教育機関、官公庁、各種施設等で活躍している社会人が、さらに高度な学識や技術を修得するために大学院へ進学しようとする機運が高まっています。本研究科では、このような向学の志を抱く社会人に積極的に応えるために、一般選抜に準じた選抜試験を課したうえで受け入れ、下記の制度をはじめ種々の履修方法を準備しています。

(2) 社会人学生の長期履修制度について

意欲ある社会人の入学を促進するために、入学時における自らの計画と申告に基づき、博士前期課程同様、標準修業年限を超える年限で課程を修了することを認める「長期履修制度」を導入しています。なお、「出産、介護等相当の事由があると認められる者」についても、これを認めています。

(長期履修制度等について)

ア 修業年限

社会人特別選抜により入学した学生のうち、「長期履修制度」の適用を希望し、研究科教授会において承認された者には、修業年限を最長6年とすることができる。

イ 履修指導及び研究指導の方法

社会人学生は、入学後に提出する「研究課題・研究計画書」をもとに指導教員と相談し、4～6年の期間にまたがる履修モデルを作成したうえで、弾力的な授業及び研究指導を受ける。

ウ 授業の実施方法

「研究課題・研究計画書」をもとに、指導教員は学生と相談し、適宜、授業を開講し、あるいは他教員の授業開講時間を調整することにより、学生の勤務形態に応じた授業実施体制を整える。また、土曜日及び平日の夜間を利用するなどして、時間割上の工夫を図る。

5 指導教員の研究領域と主な研究内容

言語文化専攻

教員名	研究領域	主な研究内容
今井 明	日本中古文学 日本中世文学	・中古文学 散文・韻文 ・中世文学 散文・韻文
月野 文子	日本上代文学 中国古典文学 和漢比較文学	・『万葉集』、『古事記』、『懷風藻』などの研究 ・中国古典文学（主として漢詩） ・和漢比較文学領域全般
坂本 浩一	日本語学	・日本語の歴史に関する研究 ・日本語の語彙・語法に関する研究 ・地域言語・方言に関する研究
大久保 順子	日本近世文学	・仮名草子と近世説話の研究 ・西鶴浮世草子の研究 ・近世以降の古典文学受容史研究
小谷 耕二	アメリカ文学	・アメリカ南部文学・南部文化史 ・黒人文学
Warren, Nicholas William	English lexicology	・語源学 ・語彙研究（特に、英語における日本語借用語。新語研究）
長岡 真吾	アメリカ文学・文化	・米国の歴史・社会と文学・文化表象との相互作用 ・エスニシティ（民族性）と文化交雑
宮川 美佐子	英文学	・近現代小説 ・前期モダニズム小説
村長 祥子	英語学	・古英語散文統語論 ・中世英語文献学

社会科学専攻

教員名	研究領域	主な研究内容
山下 哲生	外交政策 国際協力論	・現代日本の政治・外交 ・少子高齢化時代の介護と移民
尹 豪	経済人口学 人口学	・東アジア地域の経済発展と人口変動、人口政策、少子高齢化、人口減少、国際移動
岡 克彦	比較憲法学	・比較憲法研究 ・アジア法学 ・東アジア地域研究
チョウドリ マハブガル アロム	国際経営論	・企業論を含めた国際経営研究 ・アジア諸国における自動車産業や繊維産業の研究 ・アジア諸国における BOP ビジネス
宮崎 聖子	文化人類学 ジェンダー 台湾地域研究	・台湾や日本における地域社会とジェンダー・民族・階層
佐藤 秀樹	経済政策	・途上国の政策課題に対する経済理論的アプローチ ・政府の価値判断と貧困層への課税に関する理論的研究
鈴木 有美	社会心理学 健康心理学	・組織と社会における適応に関する研究 ・「情けは人の為ならず」の実証的研究 ・体験活動による態度変容に関する研究
吉田 信	国際関係論	・国際関係の理論・実証研究 ・ポストコロニアル研究 ・ヨーロッパの WLB（ワーク・ライフ・バランス）政策

6 講義等の内容

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合演習科目	言語文化総合演習 A	博士後期の大学院生を中心にした発表をもとに、研究指導教員・他分野の教員及び大学院生が討議をおこなうことにより、高度に専門化された研究を進める一方で、異分野での研究を知り、領域横断的な視点の獲得、広範な知識の獲得できるようにする。 多彩な研究課題に対する興味をもたせるとともに、分析力・批判力も涵養する。	共同
	言語文化総合演習 B	博士後期の大学院生を中心にした発表をもとに、研究指導教員・他分野の教員及び大学院生が討議をおこなうことにより、高度に専門化された研究を進める一方で、異分野での研究を知り、領域横断的な視点の獲得、広範な知識の獲得できるようにする。 共通のテーマによるディスカッションやシンポジウムの形式を取り入れ、的確な判断力と柔軟な応用力を培い、討論力を向上させる。	共同
	言語文化総合演習 C	博士後期の大学院生を中心にした発表をもとに、研究指導教員・他分野の教員及び大学院生が討議をおこなうことにより、高度に専門化された研究を進める一方で、異分野での研究を知り、領域横断的な視点の獲得、広範な知識の獲得できるようにする。 論理的な思考力及び構成力を向上させる。	共同
専門科目	言語文化特別講義 A	平安朝の文学作品の中から、和歌や枕草子・蜻蛉日記・源氏物語などを取りあげ、それらを丁寧に読むことにより、文化的側面も含め、文学と時代の価値観や社会制度との関連を理解させるよう試みる。また、後世に与えた影響も考察する。	集中・隔年
	言語文化特別講義 B	ウィリアム・シェイクスピアに代表される初期近代英国の戯曲を、現代とは異なる 16～17 世紀イングランドの社会的・文化的文脈を踏まえて読む。この授業において受講者は、(1) 初期近代英語、(2) 演劇の興行形態、(3) 演劇と社会・政治との関係、(4) 戯曲本文の成立と印刷・出版プロセスについて学び、考察する。	集中・隔年
	言語文化特別講義 C	言語を考えることは、その言語集団構成員の気持ちと文化を考えることにつながる。この講義を通じて、思想・言語・文芸・歴史などの各領域を中心とした文化に関する深い知識を身につけて、新たな知見を身につけさせる。主として、平安・鎌倉時代の文献資料を言語学的手法で読み解くことにより、この目的を達成できるように工夫する。	集中・隔年
	言語文化特別講義 D	中英語で書かれた代表的な文学作品を読み、読解力を養うとともに、現代英語と比較しながら中英語期の音声、形態、統語、談話上の特質を理解する。また、研究の世界に導くために、研究最前線の一端を紹介し、一次資料や調査・研究の方法に関するさまざまなツールやデータベースに関する情報を提供する。	集中・隔年

<p>特殊 研究 科目</p>	<p>言語文化特殊研究 I A</p>	<p>(概要)</p> <p>博士前期課程での研究成果を踏まえ、博士後期課程での各自の研究テーマの有効性と問題点を検討する。研究テーマ確定後に、その分野の大枠となる基本文献リストを作成し、資料調査が必要な場合はその実施方法について検討する。論文執筆と不可分である研究倫理に関しては、博士前期課程で開講している「研究の倫理と方法」を未履修の者に聴講するように指導し、当授業でも講義の部分で再確認を行う。有益な研究資料の追加等に関しては他分野の教員から「言語文化総合演習」等で適宜アドバイスを受け、それを活かすよう指導する。</p> <p>ここでは、主に、先行論文を読み解きながら研究指導教員と研究方法論について討議をおこなうことにより研究者に必要な知識と分析方法を再確認する。</p> <p>(今井 明)</p> <p>日本の和歌と語り物を博士課程の研究テーマとする学生を対象に、該当分野の基本的な論文と諸資料（古注釈、古辞書等）の講読を通して、研究の方向づけを指導する。</p> <p>(月野 文子)</p> <p>この授業では比較文学的手法を用いて、上代文学および日本漢文学領域の研究分野の博士論文作成に向けた指導を行う。特に比較文学的手法をとる際の注意事項を意識しながら必要な知識を補う。</p> <p>(小谷 耕二)</p> <p>アメリカ文学、特に19世紀から20世紀のアメリカ小説を中心とした演習・講義、研究指導を行う。アメリカ合衆国の歴史的な文脈と作家・作品研究との関連について調査・分析の方法を指導し、博士論文執筆への導入を行う。</p> <p>(Warren, Nicholas William)</p> <p>英語の語彙論、辞書編纂、歴史社会言語論を主たる研究テーマに掲げる学生を対象に、博士予備論文を経て、博士論文本体を計画的に執筆するための導入を行う。</p> <p>(長岡 真吾)</p> <p>アメリカ文学、特に米国の歴史／社会と作家／表現技法／文化表象との関わりなどを主たる研究テーマとする学生を対象に、博士論文を執筆するために必要な方向付けを行い、基本文献精読を通して研究への導入を行う。</p> <p>(坂本 浩一)</p> <p>日本語研究領域においてはとりわけ近代日本語に関する研究課題設定とその調査方法論についての基礎固めを重点的に行い、成果を「博士課程後期における研究調査計画」として指導教員に提出する。</p> <p>(大久保 順子)</p> <p>日本の小説・俳諧等の作品や作家とその様式を博士課程の研究テーマとする学生を対象に、該当分野の基本的な論文と作品本文の講読を通して、研究の方向づけを指導する。</p> <p>(宮川 美佐子)</p> <p>イギリス文学の授業では、よりの確な研究テーマを確定するため、受講生が研究対象として希望する作家や主題の周辺事情、近年の研究動向についても併せて考察する。</p>
-------------------------	---------------------	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特殊研究科目</p>	<p style="text-align: center;">言語文化特殊研究 I B</p>	<p>(概要) 文献・資料のリストに沿って未読かつ重要なものから順に、講義を交えながら演習形式で精読する。また受講者は、自分のテーマに関係する研究方法及び最近の研究の動向をまとめる。科目担当者は適宜講義を行う中で、受講者の理解度を確認する。その上で、受講者は博士論文のテーマに関連する先行研究をレポートとして作成し、自分の論文の意義と位置づけを明確化する。 ここでは、主に、先行論文の講読を通じて、批判力や分析力の高次化をめざす。</p> <p>(今井 明) 日本の和歌と語り物等の関連研究論文や諸資料（古注釈、古辞書等）について精読し、提起された問題点についての議論と追考を通して資料批判の力を培い、研究が深まるよう指導する。</p> <p>(月野 文子) この授業では上代文学の特殊性を理解し、その中で各自の研究がどのような位置づけになるかを確認していく。</p> <p>(小谷 耕二) 言語文化特殊研究 I B で導入した研究方法に基づいて具体的な作品分析を進める一方で、関連する領域の文献についてより広範囲のリストを作成し、自分の研究テーマの位置づけを確認しつつ論文精読を進める。</p> <p>(Warren, Nicholas William) 学生のリサーチ・プロポーザルを精査したうえで、作成された先行研究・関連文献リストのなかから、順次、重要な文献を選び、理解の確認をしながら、研究の展望を議論する。</p> <p>(長岡 真吾) 様々なメディアを活用して研究に役立つ文献の収集法をアドバイスし、論文の構想に広がりとし先進性を出せるように指導する。</p> <p>(坂本 浩一) 日本語研究領域においては学生の研究計画に基づいて調査対象の研究上の特質・留意点の討議を続けつつ近代日本語に重点を置いた先行研究講読と基礎的データの作成を進め成果をまとめる。</p> <p>(大久保 順子) I A の研究の方向づけに基づき、日本の小説や俳諧等の関連研究論文と諸作品の精読を行い、提起された問題点についての議論と追考を通して、研究の展望を拓けるよう指導する。</p> <p>(宮川 美佐子) イギリス文学の授業では、I A で確定させた研究テーマを、より幅広い視野で適切に理解するため、引き続きそのテーマに関連する他の作家、同時代の文化や社会との関連、主題の歴史的経過を併せて研究する。</p>	
---	---	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特殊研究科目</p>	<p style="text-align: center;">言語文化特殊研究ⅡA</p>	<p>(概要)</p> <p>引き続き、講義を交えた必読文献の講読を行いながら、受講者は前年度に公表された文献・資料の内容を確認し、自分の論文に必要なものを選択する。当授業の他に「言語文化総合演習」での研究発表を通して、より広い視野を獲得し、それまでの成果をもとに、博士論文の一部となりうるテーマで学会発表を行うよう指導する。受講者はその内容を論文にまとめ、研究機関誌で発表する。</p> <p>ここでは、主に、それぞれの課題に関連した調査研究の発表を通じ、論証方法の適否を検討する。</p> <p>(今井 明)</p> <p>I A・I Bで提起された和歌と語り物に関する研究課題についての諸資料の収集、調査及び考察、さらにレポートの作成と研究発表を通して、受講者の研究能力を磨く。</p> <p>(月野 文子)</p> <p>この授業では、先駆的役割を果たした論文2～3篇を読み、その着眼点等について検討を行って、論証方法等を実践的に学んでいく。</p> <p>(小谷 耕二)</p> <p>研究の方向性および文献収集の状況をあらためて確認しつつ、全体構成の作成に着手する。先行研究群との差異を批判的に検証し、自分の研究の独自性について考えをまとめられるよう指導する。</p> <p>(Warren, Nicholas William)</p> <p>研究発表に向けて資料の調査・収集を行い、個々のデータについて精査を行うとともに、従来の学説の補強、修正或いは新説の提案について議論を行う。</p> <p>(長岡 真吾)</p> <p>これまでの研究成果を総合し、口頭発表や論文執筆という成果発表までの方法論を実践的に学ぶ。それを博士論文執筆に応用・発展させることができるように指導する。</p> <p>(坂本 浩一)</p> <p>日本語研究領域では近代日本語に重点を置いて資料分析に関する先行研究の手法を吟味しながら調査方法の修正を重ねる。成果を発表し討議を行う中で分析考察上の問題点をデータ収集を進めながら洗い出す。</p> <p>(大久保 順子)</p> <p>I A・I Bで提起された日本の小説・俳諧等に関する研究課題についての諸資料の収集、調査及び考察、さらにレポートの作成と研究発表を通して、受講者の研究能力を磨く。</p> <p>(宮川 美佐子)</p> <p>イギリス文学の授業では、各種アンソロジーやケースブックなどを活用して、現代批評理論・文化理論についても理解を深め、これらのものを援用する、あるいは自身が研究手法に用いなくてもその意義が理解できるように研究を進める。</p>	
---	---	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特殊研究科目</p>	<p>言語文化特殊研究ⅡB</p>	<p>(概要) 引き続き博士論文を書き進めるために、直近に出版・公表された文献講読とそのまとめを行う。また、これまでに行った独自の資料調査を整理し、演習で調査結果の解釈や取り扱いに関して検討を重ねる。授業と平行して、博士論文の一部となる、2本目の論文を作成し、口頭発表や学会誌での論文公表をするための指導を行う。 ここでは、主に、それぞれの課題に関連した調査研究の発表を通じ、解析方法の適否を検討する。</p> <p>(今井 明) ⅡAで行った研究発表の検討を踏まえ、その研究視点を専攻分野の今日の研究動向の中に位置づけ、資料批判と考察を深めるよう指導を行う。</p> <p>(月野 文子) それぞれの課題に関連した調査研究の発表を通じ、調査結果の解釈・解析方法の適否を検討する。</p> <p>(小谷 耕二) 言語文化特殊研究ⅡAでの到達点を踏まえ、最新の研究動向を調査しつつ、受講者の研究対象に関わる論文を選んで購読の材料とし、内容や形式について議論する。</p> <p>(Warren, Nicholas William) 先行研究の検討を踏まえ、自身の収集した資料をもとに論文を数篇執筆し、学会発表に向けた指導を行う。</p> <p>(長岡 真吾) ⅡAでの研究発表結果を点検し、問題点の明確化、改善方法の検討を行い、次回の研究発表と博士論文執筆に活かせるように指導する。</p> <p>(坂本 浩一) 日本語研究領域では近代日本語について重点的に先行研究批判を行いながら調査を進め、データを電子化して数量的分析に活かすとともに研究発表や論文発表での成果報告に結びつける。</p> <p>(大久保 順子) ⅡAで行った研究発表の検討を踏まえ、その研究視点を専攻分野の今日の研究動向の中に位置づけ、作品の解釈と分析についての考察を深めて論文作成を行うよう指導する。</p> <p>(宮川 美佐子) イギリス文学の授業では、Project Muse や MLA Bibliography を活用して、受講生の研究テーマに関連する最新の文献を収集し、講読することで研究を深める。</p>	
---	-------------------	--	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特殊研究科目</p>	<p>言語文化特殊研究Ⅲ A</p>	<p>(概要)</p> <p>この時期までに博士論文のまとめを行い、予備論文を概ね完成させる。その一環として、当授業でも予備論文内容に検討を加え、必要に応じて補完すべき知識の教授や方法論の助言を与える。論文の使用言語が英語の場合、英語表記に関する確認指導も行う。</p> <p>ここでは、主に、予備論文までの成果をまとめた研究報告を通して、博士論文の完成をめざす。</p> <p>(今井 明)</p> <p>予備論文で研究課題の論究の成果の概要を確認し、日本古典文学研究としての用語の使用の適否や論文構成についても指導を行う。</p> <p>(月野 文子)</p> <p>主に、予備論文までの成果をまとめた研究報告を通して、論旨の一貫性とデータ処理・分析の妥当性を確認する。</p> <p>(小谷 耕二)</p> <p>論文の全体構成について検討し、章立ておよび各章内部の論理的つながり、文献の援用の仕方、分析・考察の内容などをひとつひとつ確認・指導する。</p> <p>(Warren, Nicholas William)</p> <p>博士論文執筆の要件を得るために、発表した論文をもとに博士予備論文の作成を行い、研究構想の概要とその意義を再確認する。</p> <p>(長岡 真吾)</p> <p>執筆中の博士論文の論旨の一貫性、構成や表現の適切さ、本文と文献リストの表記方法の正確さなどを入念に確認し、適切な修正をほどこせるように指導する。</p> <p>(坂本 浩一)</p> <p>日本語研究領域においては予備論文をまとめながら、調査方法・データ処理・分析考察・結論各部分について学術的妥当性の面から検討を重ね修正を加えて行く。</p> <p>(大久保 順子)</p> <p>研究成果のまとめが的確になされているか、予備論文で概要を確認し、日本文学研究用語の使い方や論文構成、論述の展開等に関しても指導を行う。</p> <p>(宮川 美佐子)</p> <p>イギリス文学の授業では、博士論文完成に向けて、その主題と各章の関連、構成、内容、表現の適切性について精査する作業に入る。引証リストに洩れがないかチェックする。</p>	
---	--------------------	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特殊研究科目</p>	<p style="text-align: center;">言語文化特殊研究ⅢB</p>	<p>(概要) 博士論文を完成させ、公開審査に備えるために授業内で講義と演習を行う。論文審査後、受理された場合は公表に向けての指導を演習形式で行う。ここでは、博士論文の公開審査に向けての論文概要や補助資料を作成する。</p> <p>(今井 明) 学位論文の完成の確認作業、推敲、追加資料の作成などについて指導し、論文提出後の公開審査の準備を進める。</p> <p>(月野 文子) 学位論文の最終稿を完成させ、補足資料の確認と残された課題の整理を行って公開審査の準備を行う。</p> <p>(小谷 耕二) 学位論文の内容と形式両面における点検・推敲の作業について指導し、補助資料の作成や残された課題について検討しつつ、公開審査への準備を進める。</p> <p>(Warren, Nicholas William) 博士論文本体の執筆を促し、論の展開、資料の可否、英語表現の校閲などの作業を行い、併せて公開審査に向けた準備を進める。</p> <p>(長岡 真吾) 出来る限り長く推敲に時間を費やせるように早めに最終稿を完成させ、可能であれば同分野や近接分野の教員のアドバイスも必要に応じて受け、修正に活かすように指導する。</p> <p>(坂本 浩一) 日本語研究領域においては研究成果の博士論文としての完成を急ぐ。公開審査に向けて細部のチェックを繰り返して適切な要約レジュメ・データ資料類を作成する。</p> <p>(大久保 順子) 学位論文の完成までの推敲と確認作業、追加資料の作成などについて指導し、公開審査に向けて論文提出後の検討課題を明確にさせる。</p> <p>(宮川 美佐子) イギリス文学の授業では、博士論文完成に際し、達成できたことと残された課題の確認も含めて論文を総括する。</p>	
---	---	---	--

授業科目の概要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合演習科目	社会科学総合演習 A	社会科学総合演習では、大学院生それぞれが自ら進捗させてきた研究成果について他分野の教員及び大学院生と討議することにより、研究課題の多角的な視点からの深化や独創的な手法を用いた研究の進展を目指す。 本演習では、博士論文のテーマ設定を行うための先行研究のレビューの仕方、文献の読み方に焦点を当て、領域横断的な視点からの分析力や批判力の育成を通して発展性や独創性のある研究課題を発見する能力を養う。	共同
	社会科学総合演習 B	社会科学総合演習では、大学院生それぞれが自ら進捗させてきた研究成果について他分野の教員及び大学院生と討議することにより、研究課題の多角的な視点からの深化や独創的な手法を用いた研究の進展を目指す。 本演習では、博士論文の完成に向けて蓄積した研究成果の外化に焦点を当て、学会発表の仕方や学術論文の構成について領域横断的な視点から批評を受けることによって総合的なプレゼンテーション能力を養う。	共同
	社会科学総合演習 C	社会科学総合演習では、大学院生それぞれが自ら進捗させてきた研究成果について他分野の教員及び大学院生と討議することにより、研究課題の多角的な視点からの深化や独創的な手法を用いた研究の進展を目指す。 本演習では、博士論文の学術的価値の明晰化に資する方法論に焦点を当て、データの収集法及び分析法、研究課題の社会的意義づけ等を領域横断的な視点から検討し、新規性に富む研究を遂行する応用力を養う。	共同
専門科目	社会科学特別講義 A (国際関係分野)	本授業は、現在世界各地で生起している戦争(紛争)の生成メカニズムを政治的、文化的、社会的側面から複眼的に検証し、その上で平和構築の方策を提示することに主眼を置いている。検証対象地域は、担当教員のフィールドであり、かつ今日混迷の度を深め紛争の拡散が懸念されている中東を中心に据えるが、中国の海洋進出問題や日露、日中、日韓間の領土問題など日本を取り巻く国際情勢の動向にも留意しながら進める。さらに受講生の関心に応じて検証の対象とする地域に変更を加えることもある。	集中・隔年
	社会科学特別講義 B (経済分野)	経済成長に伴って、二酸化炭素の排出による地球温暖化の問題と種々の社会問題が現実起こっており、適切な解決および対応が求められている。そのために、これらの問題を長期的なパースペクティブで捉え、何が生起しており、それが何に起因しているかを厳密に把握し、対応策を考えることが重要である。本講義では、内生的成長論の潮流のもとで、社会的に健全なグリーン経済成長という視点からこの問題を考察する。	集中・隔年

専門科目	社会科学特別講義C (経済分野)	本講義の目的は、経営学の「総合的アプローチ」すなわち、経営管理、労務管理、生産管理、意思決定、そしてコーポレートガバナンスの個別分野から、日本企業が特徴的に用いてきた日本的経営について論ずることにある。日本的経営は日本の経済社会文化の中にどのように形成されてきたのか、また、現代の日本の伝統文化および環境要因の中で、どの程度変化しつつあるのかについても議論する。まず、日本経済とビジネスの歴史的転換点について概観した後、以下のトピック、雇用慣行（終身雇用や年功序列）、教育訓練（社内外教育訓練や経営者教育）、労使関係（企業別組合や春闘）、意思決定、生産管理（TQC、JIT、Kanban、下請け系列）、企業ガバナンスに関して考察を行う。なお受講生と協議を行いつつ個別の企業の事例を適宜取り上げていく。	集中・隔年
	社会科学特別講義D (国際関係分野)	本講義では、ILO（国際労働機関）が、ベルサイユ平和条約で設置されたことの歴史的意義と、その後の活動（特に基準設定活動）によって国際労働法が規範として確立していったかを研究する。同時に、人権の国際的保障の系譜の中で、国際労働立法が果たした役割を確認することで、国際社会の中の経済社会的協力の実態を特定する。	集中・隔年
研修科目	国際社会特殊研修	自らの専攻分野の有用性を理解して、国際社会における課題解決に活かすことができるよう研修先で実務を体験する。こうした実社会での能動的学習と実践を通して、修得した理論の蓄積を拡張させるのみならず、高度専門職業人に必須の資質を高めることを目的としている。 研修先としては、国内外の公的機関および研究所等において将来のリーダーとなる人材を研修生として受け入れている機関を設定しているので、受講生各自で研修先とプログラムを確認し、選定の上交渉することとする。	共同
特殊研究科目	社会科学特殊研究 I A	（概要）博士前期課程における研究成果を踏まえ、博士後期課程における研究テーマの設定を目標とする。設定した研究テーマに係る文献・資料調査の能力を高めるため、研究指導教員からの指導に基づき調査計画を立て、実施する。なお、副指導教員に対しても適宜研究の進捗状況を報告するとともに、論文執筆に向けた助言を受ける。 （尹 豪） 出生率・人口減少・少子高齢化などの現象を人口経済学理論の手法から分析する能力を修得する。 （岡 克彦） 韓国を中心とした東アジア諸国の比較法学を対象に演習・講義・研究指導を実施する。日本を含む東アジア諸国の法制度や法文化に関する基本文献の精読を通して研究への導入を行う。 （チョウドリ マハブブル アロム） 経営戦略の問題としての経営理念や組織文化について、広く文献を渉猟させる。文献精読を通して、経営の国際化の目的について理解を深め、国際経営に関する基礎概念や方法論を修得する。 （宮崎 聖子） 家族・地域・国家などをジェンダー、階層、エスニシティ等の視点から分析するための研究手法を修得するための指導を行う。	

		<p>(佐藤 秀樹) 育児、知的財産、地方分権といった人口に膾炙する政策課題に関して、それらの各々を経済学的に把握し、政策的インプリケーションを解釈することができる能力を涵養する。</p> <p>(鈴木 有美) 組織あるいは社会における人間行動に関する問題意識を深め、関連する先行研究を広くレビューする。文献精読を通して、ウェルビーイングや幸福の概念を中心に、政治・経済・経営・教育といった社会活動において適応を目指す人間の心理行動科学の基礎を身に付ける。</p> <p>(吉田 信) 国際関係の理論的文献の精読を通じて博士論文の執筆に向けた構想をまとめる。</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特殊研究科目</p>	<p>社会科学特殊研究 I B</p>	<p>(概要) 基礎文献の選択の後、講義を通じて論文のテーマに関連する研究方法・最新研究の動向を確認する。受講者は博士論文の執筆に向けて先行研究を整理し、自らの論文の研究上の意義を明確にする。</p> <p>(尹 豪) 出生率・人口減少・少子高齢化などの現象に関する資料・データの収集・分析能力を培う。</p> <p>(岡 克彦) 社会科学特殊研究 IA を踏まえ、比較法学（アジア法）の研究上の特質を把握するため、事例研究に係る先行論文を精読する。</p> <p>(チョウドリ マハブブル アロム) 国際ビジネスの学問体系に存する「多国籍企業論」と「国際経営論」の2つについて、両者の独立性を理解するとともに、多国籍企業の位置付けから共通点と相違点を明確にさせる。</p> <p>(宮崎 聖子) IA で扱ったテーマをもとに、ジェンダー・エスニシティなどの分析を事例とする先行研究を講読し、自らの研究の位置づけを確認していく。</p> <p>(佐藤 秀樹) 1 年前期に涵養した能力を更に深化させ、市場経済全体を経済学的に把握する。そして、市場の機能がもたらし得る社会的なアウトカムと政府がなすべき役割とを理論的に理解する。</p> <p>(鈴木 有美) 心理統計の基礎やデータ解析といった心理計量学の理解を深めるとともに、心理行動科学における多様な研究方法の中から、自らの研究テーマに適した研究方法を選択し、研究発表の構想をデザインできるように指導する。</p> <p>(吉田 信) 国際関係の理論的文献を精査し、受講生の研究関心に応じた先行研究の講読を進め、研究の方向性を導き出すように指導する。</p>	

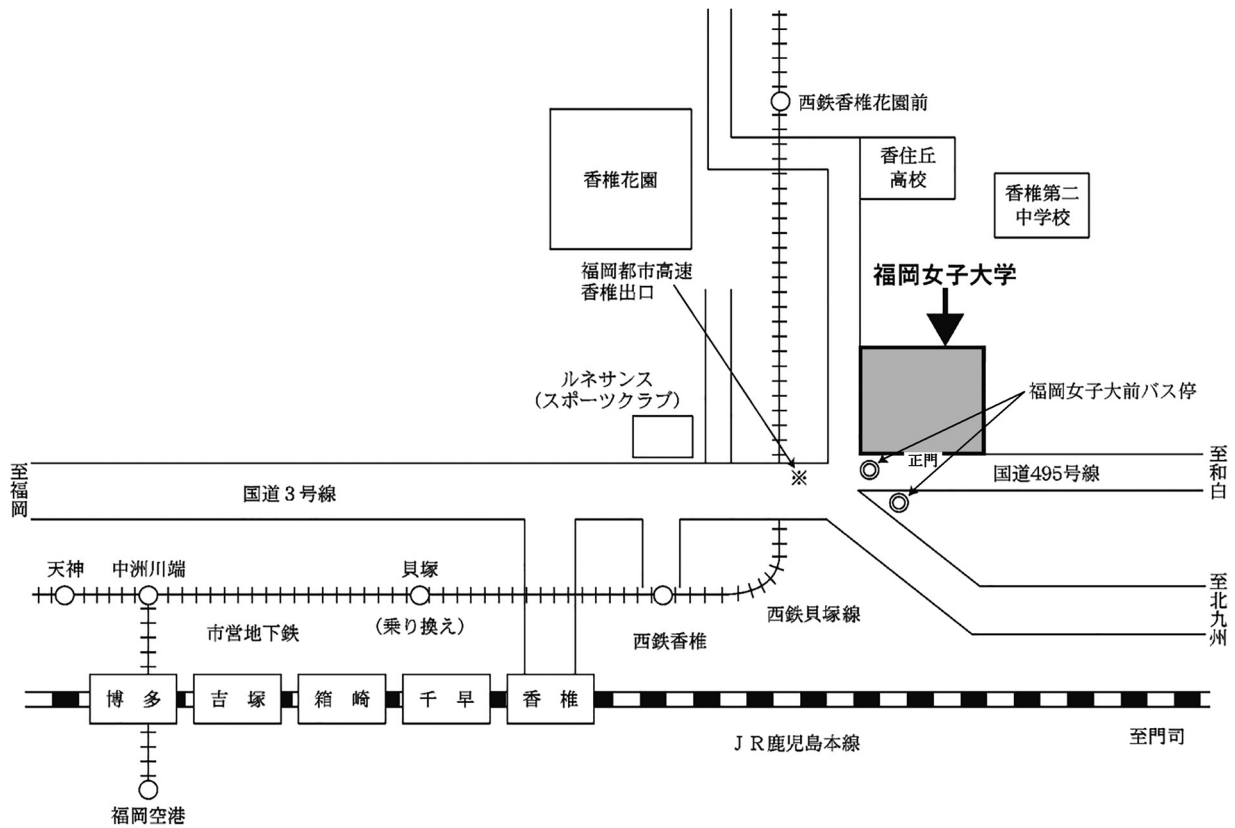
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特殊研究科目</p>	<p>社会科学特殊研究Ⅱ A</p>	<p>(概要) 1年次の研究を踏まえ、研究テーマの専門領域に関する資料・データ収集、それらの整理・分析をすすめる。博士論文の一部を構成するテーマについて、受講者は先行研究を整理しつつ、研究テーマを練り上げていく。各自の研究課題に関連した調査研究の発表を通じ、博士課程における研究課題の報告・議論の手法を修得する。</p> <p>(尹 豪) 研究発表に向けて資料の調査・収集を行い、個々のデータについて精査を行うとともに先行研究の批判的検討を行う。</p> <p>(岡 克彦) 事例研究として韓国を中心とした東アジア地域へのフィールド調査・資料収集などを経て、この地域の法制度と法実態を解明する。</p> <p>(チョウドリ マハブブル アロム) 海外直接投資の動機分析そのものを理論的な中心課題としている多国籍企業論の理解を深め、実証分析等の研究方法論を獲得する。</p> <p>(宮崎 聖子) IA・IBで扱ったテーマをもとに、各自の研究関心に応じてフィールド・ワークを実施する。</p> <p>(佐藤 秀樹) 先端的研究への橋渡しとして、市場 - 政府間関係のみならず法・制度をも考慮した新しい政策論に関する文献的系譜をレビューする。</p> <p>(鈴木 有美) 大学院生が自ら計画した研究発表を実行に移すことができるように指導する。受講者が自らの論文構想に対して批判的な検討が行えるようにし、論文執筆の準備を整える。</p> <p>(吉田 信) 国際関係論の古典的な理論研究に加え、現代の国際関係理論の展開について理解を深める。</p>	
---	--------------------	--	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特殊研究科目</p>	<p>社会科学特殊研究ⅡB</p>	<p>(概要) 学位論文の構想を確定し、学位論文構想を反映したレポートもしくは論文の執筆を進める。既存研究の整理を済ませるとともに、学位論文の構想を発表し、研究指導教員、副指導教員および他分野の教員からの批判的考察を受ける。</p> <p>(尹 豪) 先行研究の整理を済ませ、博士論文の構想を事前発表するとともに、論文構想をまとめる。</p> <p>(岡 克彦) 事例研究として韓国を中心とした東アジア地域へのフィールド調査・資料収集をさらに深化させて、博士論文の構想を固める。</p> <p>(チョウドリ マハブブル アロム) 世界の多国籍企業にとって無視できない存在である日本において、多国籍企業が直面する困難（市場への参入・浸透、独特なビジネス慣習、不透明な規制など）についての論文を作成する。</p> <p>(宮崎 聖子) 各自の研究関心に応じたフィールド・ワークを踏まえ論文執筆に必要な理論枠組み・研究手法などを論文構想に盛り込み、博士論文執筆に向けた報告を行う。</p> <p>(佐藤 秀樹) 2年前期に蓄積した知識に基づいて、法と経済学もしくは公共経済学等に関する先端的研究を精読し、オリジナリティーを開拓する。また、学会報告の予行や報告後の対応についても適切に指導する。</p> <p>(鈴木 有美) これまでの研究成果を投稿論文にまとめさせる。査読コメントに適切に対応する論文修正作業を通して、研究者としての素養と能力の向上を図り、論文が採択されるよう指導する。その論文を中心に組み込んだ博士論文の構想をまとめさせる。</p> <p>(吉田 信) 国際関係論の基礎文献・先行研究の整理を終え、博士論文執筆に向けて論文構想を進める。</p>	
---	-------------------	--	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特殊研究科目</p>	<p>社会科学特殊研究ⅢA</p>	<p>(概要) 社会科学特殊研究Ⅱにおいてまとめた博士論文の構想を基に、学位申請のための予備論文を作成させ、提出させるための指導を行う。提出後は、予備論文審査に合格させるための指導を行う。</p> <p>(尹 豪) 出生率・人口減少・少子高齢化などの現象に関する資料・データの分析を行うことによりデータの収集・分析をまとめて、博士論文構想を具体化させ予備論文をまとめる。</p> <p>(岡 克彦) 比較法学（アジア法）の研究上の特質を把握した上で、事例研究を踏まえて、博士論文構想を具体化させ予備論文をまとめる。</p> <p>(チョウドリ マハブブル アロム) 特にアジア諸国に進出した日本企業の国際的経営組織について実証的に検証し、考察を行った博士論文構想から学位申請のための予備論文をまとめる。</p> <p>(宮崎 聖子) ジェンダー・エスニシティなどの分析事例を確認しつつ、博士論文構想を具体化させ予備論文をまとめる。</p> <p>(佐藤 秀樹) 学会報告論文の改訂と相俟って、その論文に直結した先駆的研究以降の文献的系譜を丹念にレビューし、博士論文を構想する。更に、学会報告の予行や報告後の対応についても指導する。</p> <p>(鈴木 有美) 2年次においてまとめた博士論文構想から学位申請のための予備論文を作成し、提出させる。予備論文審査に合格できるよう指導を行う。</p> <p>(吉田 信) 国際関係の理論的文献を精査し、受講生の研究内容を深めて、博士論文構想を具体化させ予備論文をまとめる。</p>	
---	-------------------	--	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特殊研究科目</p>	<p>社会科学特殊研究Ⅲ B</p>	<p>(概要) 予備論文審査合格を経て、博士論文提出資格を得た大学院生に対する助言を中心として授業を進める。これまでの研究成果を博士論文として結実させるとともに、博士論文提出後は公開審査に合格するための指導を行う。</p> <p>(尹 豪) 人口経済学に関する学位論文を完成させ、博士の学位取得に向けた指導を行う。</p> <p>(岡 克彦) 比較法学（アジア法）に関する学位論文を完成させ、博士の学位取得に向けた指導を行う。</p> <p>(チョウドリ マハブブル アロム) これまでの研究成果を基に、国際経営・経済分野及びアジア諸国における企業経営に関する博士論文を完成させ、博士の学位取得に向けた指導を行う。</p> <p>(宮崎 聖子) ジェンダー研究に関する学位論文を完成させ、博士の学位取得に向けた指導を行う。</p> <p>(佐藤 秀樹) 3年前期の構想に基づき、経済分野における政策論として従前の研究成果を整理し、博士論文に結実させる。</p> <p>(鈴木 有美) これまでの研究成果を基に、社会活動における適応をテーマとした心理行動科学に関する博士論文を完成させ、博士の学位取得に向けた指導を行う。</p> <p>(吉田 信) 国際関係論に関する学位論文を完成させ、博士の学位取得に向けた指導を行う。国際関係の理論的文献を精査し、受講生の研究内容を深めて、博士論文構想を具体化させ予備論文をまとめさせる。</p>	
---	--------------------	--	--

7 交通案内



- ◎ J R 香椎駅から徒歩約 15 分 (J R 香椎駅には停車しない特急列車もあるので注意すること)
- ◎ 天神方面からの地下鉄利用は、貝塚駅で西鉄貝塚線乗換え「西鉄香椎駅」下車 徒歩約 13 分、
「西鉄香椎花園前駅」下車 徒歩約 10 分
- ◎ 西鉄バス「天神郵便局前」乗車、「福岡女子大前」下車
(天神から約 15 分【都市高速経由】：下表参照)

系統番号	始発・経由	所要時間	行先
21A	天神郵便局前 (都市高速経由)	15分	雁の巣レクリエーションセンター
26A	天神郵便局前 (都市高速経由)	15分	赤間営業所
21	天神郵便局前	30分	雁の巣レクリエーションセンター・志賀島小学校前
23	西公園 天神郵便局前	30分	高美台1丁目・大蔵・西鉄三苫駅・香椎花園・新宮緑ヶ丘 (下原行は福岡女子大前に停車しません)
26	天神郵便局前	30分	赤間営業所

(付) 平成 31 年度福岡女子大学大学院人文社会科学研究所
言語文化専攻・社会科学専攻【博士後期課程】
学生募集要項 (一般選抜・社会人特別選抜・留学生特別選抜
・福岡女子大学修士課程修了者特別選抜)

1 募集人員

言語文化専攻 2 人、社会科学専攻 2 人

なお、志願者は「2 出願資格」の(1)～(4)の中から該当するものを選択すること。

2 出願資格

(1)一般選抜

次の各号の一に該当する女子が出願できる。

- ① 修士の学位や専門職学位を有する者及び取得見込みの者 (学校教育法第 102 条第 1 項)
- ② 外国において、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者 (学校教育法施行規則第 156 条第 1 号)
- ③ 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 (施行規則第 156 条第 2 号)
- ④ 我が国において、外国の大学院相当として指定した外国の学校の課程 (文部科学大臣指定外国大学 (大学院相当) 日本校) を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者 (施行規則第 156 条第 3 号)
- ⑤ 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者 (施行規則第 156 条第 4 号)
- ⑥ 文部科学大臣の指定した者 (平成元年文部省告示第 118 号)
- ⑦ 本学大学院において個別の入学資格審査により修士の学位と同等以上の学力があると認めた者で、原則 24 歳に達したものの

(2)社会人特別選抜

入学時点で、大学院修士課程修了後、社会人として 3 年以上の経験を有する女子で、上記(1)の①から⑦のいずれかの出願資格を有するものが出願できる。

(3)留学生特別選抜

日本の国籍を有しない女子で、次の各号の一に該当するものが出願できる。

- ① 外国において、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者 (施行規則第 156 条第 1 号)
- ② 我が国において、外国の大学院相当として指定した外国の学校の課程 (文部科学大臣指定外国大学 (大学院相当) 日本校) を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者 (施行規則第 156 条第 3 号)
- ③ 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者 (施行規則第 156 条第 4 号)
- ④ 文部科学大臣の指定した者 (平成元年文部省告示第 118 号)
- ⑤ 本学大学院において個別の入学資格審査により修士の学位と同等以上の学力があると認めた者で、原則 (平成 31 年 4 月 1 日までに) 24 歳に達したものの

(4)福岡女子大学修士課程修了者特別選抜

福岡女子大学大学院修士課程 (博士前期課程) を修了した女子が出願できる。

なお、「修了見込み」の者であっても、すでに修士論文を提出している場合は、出願できる。

3 試験日

秋季試験 平成 30 年 9 月 22 日 (土)

春季試験 平成 31 年 2 月 16 日 (土)

4 試験場

福岡女子大学 (福岡市東区香住ヶ丘 1-1-1)

交通機関については、19 ページを参照すること。

5 試験科目 ※秋季試験、春季試験とも同じ試験科目、同じ時間帯で実施する。

言語文化専攻 博士後期課程			
区分	10:00～11:30(90分)		13:00～
一般選抜	筆記試験	・専門分野※1 ・外国語(選択)※2または資料読解	面接試験 修士論文および今後の研究に関する ことなど (修士論文または これに準じる学術 論文を審査の対象 とする)
社会人 特別選抜		・専門分野	
留学生 特別選抜		・専門分野	
福岡女子大学 修士課程 修了者特別選抜		・専門分野	

※1 英語圏言語文化コース志願者については、専門分野の出題に英語以外の外国語を一部用いることがある。

※2 一般選抜の外国語については、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語から1つ選択。

なお、母語は、外国語として選択できない。

社会科学専攻 博士後期課程			
区分	10:00～11:30(90分)		13:00～
一般選抜	筆記試験	・専門分野に関する外国語(読解)※1	面接試験 (論文審査) 修士論文および今後の研究に関する ことなど (修士論文または これに準じる学術 論文を審査の対象 とする)
社会人 特別選抜		・専門分野※2	
留学生 特別選抜		・専門分野※2	

※1 外国語については、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語から1つ選択。

なお、母語は、外国語として選択できない。

※2 専門分野の出題については外国語を用いることがある。

6 出願期間

秋季試験 平成30年8月20日(月)～8月24日(金)17時まで必着

春季試験 平成31年1月11日(金)～1月18日(金)17時まで必着

7 出願手続き

入学志願者は、次の書類を「6 出願期間」の期間内に本学学務部 教務企画・入試班に提出すること。

出願書類を郵送するときは、必ず書留速達とし、封筒表面に「大学院人文社会科学研究科博士後期課程入学願書」と朱書きすること。

なお、提出された出願書類及び納入金は原則として返還しない。また、出願書類に不備があるものは、受理しない。(該当書類が英語以外の外国語表記の場合、必ず和訳文または英訳文を添付すること。)

(1) 入学願書及び受験票

本研究科所定様式(本要項に添付)を使用のこと。

(2) 研究志望調書及び研究計画書

本研究科所定様式(本要項に添付)を使用のこと。

研究計画書については、本研究科の定める以下の【作成要領】に従うこと。

【研究計画書作成要領】

大学院入学後におこないたいと考えている研究計画については、4000字程度とする。A4判の用紙(縦置き)に12ポイントの文字で、1頁を1050字相当(1行35字で30行)に設定

の上、横書きで記載すること。英語でも可。

但し、以下①～④の諸事項に関して、バランス良く記述すること。

- ① 主たる研究課題の題目及びその要旨
- ② その研究課題を定めるに至った経緯(例えば、修士論文との関連性など)
- ③ 研究課題についての具体的な計画
- ④ その研究のもつ学術的な意義

なお、この研究計画書は、修士論文とともに、面接試験の際の重要な資料となるものであるから、十分に練り上げたものにする。

(3) 成績証明書

出身大学院の学籍原簿の写し又はそれに相当する単位取得を証明するもの。(要厳封)

(4) 最終大学院の修了証明書又は見込証明書

(5) 修士論文。また、修士論文以外の研究成果物がある場合は、それも併せて提出すること。修了見込みの者は、修士論文にかわるものを提出すること。いずれも、コピー可。ただし、原則として返却しない。

(6) 入学考査料

入学考査料は 30,000 円。納入方法は、銀行窓口での振込「電信扱」に限る。納入後は、原則として返還しない。本課程案内最終ページの入学考査料振込依頼書を切り離し、太枠で囲まれている記入欄に必要事項をすべて黒ボールペンで正確・明瞭に記入し、A・B・C票を切り離さず銀行へお持ちください。ただし、振込手数料は、志願者に負担していただきます。振込の後、銀行窓口で返還されたB・C票のうち、C票(「福岡女子大学(大学院)入学考査料振込金受付証明書」)を、入学願書裏面の入学考査料振込金受付証明書貼付欄に貼ってください。

(7) 写真(2枚)

たて4cm×よこ3cm、正面上半身、無帽、出願期間以前3ヶ月以内に撮影したもの2枚を、それぞれ入学願書、受験票に貼付すること。

(8) 受験票返信用封筒

返信用封筒(長形3号120mm×235mm)に宛先、郵便番号を明記し、82円切手を貼付すること。

(9) 在職期間証明書(社会人特別選抜志願者のみ)

本研究科所定様式(本要項に添付)を使用のこと。

8 合格発表

秋季試験 平成30年10月5日(金)

春季試験 平成31年2月22日(金)

合格発表日の14時頃、本学正門横掲示板に掲示するとともに、合格者には本人あてに郵送で通知する。なお、本学のウェブサイトにおいても合格者の受験番号を掲載する。ただし、公式の合格発表については、必ず本学掲示板又は合格通知書で確認すること。電話による可否の問い合わせは一切受け付けない。

9 入学手続き

(1) 入学手続期間

秋季試験合格者 平成30年10月9日(火)～10月16日(火)17時まで

春季試験合格者 平成31年2月25日(月)～3月4日(月)17時まで

(郵送の場合、必ず書留速達とし、秋季試験合格者は10月16日(火)17時までに、春季試験合格者は3月4日(月)17時までに必着のこと)持参の場合、受付時間は9時から17時までとする。土・日・祝日は行わない。
上記期間中に手続を完了しない場合、入学を辞退したものと取り扱う。

(2) 提出書類

ア. 誓約書(本研究科所定のもの。合格通知書と同封して郵送する。)

イ. 住民票(留学生特別選抜については、市町村長が発行する在留資格及び在留期間を明記したもの。出願者以外の世帯員については証明不要)

ウ. 外国人で入学許可が出国の要件となっている国外在住者については、外務省在外公館又は日本国政府の承認した外国政府その他の発行する留学資格証明書・紹介状・推薦書等

エ. その他必要書類等は、合格通知とともに通知する。

(3) 納入金(平成30年度の額であり、一部変更になる場合がある。)

入学料 県内の者 282,000円

県外の者 520,000円

授業料 前期分 267,900円(年額535,800円)

※ 入学手続きでは入学料のみの納入となります。

※ 入学料について「県内の者」とは、(ア)入学しようとする者の生計の主たる維持者が入学しようとする年の前年の3月1日から入学許可の日まで引き続き福岡県内に居住している者、(イ)入学しようとする者の生計の主たる維持者が勤務等の事由により県外居住者であっても、入学者を含む家族の大半が(ア)に掲げる期間中福岡県内に居住している者をいう。

なお、上記の県内居住については、住民票が期間中県内にあるかどうかにより判断する。「県外の者」とは、上記以外の者をいう。

※ 在学中に授業料の額の改定が行われた場合には、改定後の授業料の額が適用されます。

※ 福岡女子大学大学院博士前期課程修了後引き続き本学博士後期課程に進学する場合は、入学料は徴収しない。ただし、本学大学院博士前期課程修了後1年以上経過してからの入学者については、入学料を徴収する。

※ 平成29年九州北部豪雨により被災した福岡女子大学志願者の入学金及び入学考査料について免除の特例措置を実施します。詳しくはURLをご覧ください。http://www.fwu.ac.jp/exam_info/h31/

(4) 入学手続場所

福岡女子大学 学務部 教務企画・入試班 〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号
TEL 092-661-2417 内線 2212

(5) その他不明な点は、下記まで問い合わせること。

福岡女子大学 学務部 教務企画・入試班 〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号
TEL 092-661-2417 内線 2212

◎ 障害がある入学志願者の事前相談

障害がある入学志願者で、受験上および修学上配慮を必要とする者は、相談に応じますので、事前に学務部 教務企画・入試班(092-661-2417)にご相談ください。

◎ 留学生への支援制度(平成30年度実績)

留学生として本学大学院に入学した者(県外の者に限る)には、その入学時の成績等により、入学金が半額となる制度及び、入学後の研究計画書の内容と面接により、授業料が半額となる制度があります。また、本学に設置されている学生寮に入寮することもできます。ただし、入寮できる人数には限りがあります。

◎ 試験結果の開示

試験結果は受験者本人に限り、学務部 教務企画・入試班において開示します。期間は、秋季試験は平成30年10月22日(月)から11月2日(金)、春季試験は平成31年4月8日(月)から4月19日(金)までです。ただし、いずれも9時から17時までとし、土・日・祝日は開示を行いません。開示を申請する際には、本大学院入試の受験票をお持ちください。

平成31年度福岡女子大学大学院人文社会科学研究所 【博士後期課程】 入試日程

秋季試験	
出願期間	平成30年8月20日(月)～8月24日(金)17時まで
試験日	平成30年9月22日(土)
合格発表	平成30年10月5日(金)
入学手続期間	平成30年10月9日(火)～10月16日(火)

春季試験	
出願期間	平成31年1月11日(金)～1月18日(木)17時まで
試験日	平成31年2月16日(土)
合格発表	平成31年2月22日(金)
入学手続期間	平成31年2月25日(月)～3月4日(月)

福岡女子大学大学院人文社会科学研究科入学願書（博士後期課程）

志望専攻名 <small>(いずれかを○で囲むこと)</small>	言語文化専攻	社会科学専攻
選抜の区分 <small>(いずれかを○で囲むこと)</small>	一般選抜 ・ 社会人特別選抜 ・ 留学生特別選抜 ・ 福岡女子大学修士課程修了者特別選抜	
フリガナ		受験番号 ※記入しないこと。
氏名		国籍 ※留学生のみ記入すること。
生年月日	昭和・平成 年（西暦 年） 月 日（満 歳）	
現住所	〒 電話（ ） —	
保証人 <small>(続柄)</small>	氏名 <small>()</small>	住所 電話（ ） —
年 月	履歴事項（高等学校卒業から記入すること。職歴含む。留学生は小学校から記入）	
・		写真貼付欄 写真はたて4cm、よこ3cmの大きさ 正面上半身無帽で出願前3ヶ月以内に撮影したもの 受験票と同じ写真を貼付すること
・		
・		
・		
・		
・		
・		
合格通知の送付先住所	〒 電話（ ） —	

-----切り取らないこと-----

福岡女子大学大学院人文社会科学研究科入学受験票（博士後期課程）

フリガナ		写真貼付欄 写真はたて4cm、よこ3cmの大きさ 正面上半身無帽で出願前3ヶ月以内に撮影したもの 入学願書と同じ写真を貼付すること
氏名		
受験番号	※記入しないこと。	
試験日程 <small>(いずれかを○で囲むこと)</small>	平成30年9月22日（土）・平成31年2月16日（土）	
志望専攻名 <small>(いずれかを○で囲むこと)</small>	言語文化専攻	社会科学専攻
選抜の区分 <small>(いずれかを○で囲むこと)</small>	一般選抜 ・ 社会人特別選抜 ・ 留学生特別選抜 ・ 福岡女子大学修士課程修了者特別選抜	
専門分野に関する外国語 <small>(一般選抜志望者のみ)</small>	英語 ・ ドイツ語 ・ フランス語 ・ 中国語 ・ 韓国語 (受験する外国語を一つを選んで○で囲むこと)	

入学審査料振込金受付
証明書貼付欄

試験科目	筆記試験	10:00~11:30	面接試験	13:00~
受験上の注意				
1. この受験票は試験当日必ず携帯し、試験室では机の上に置くこと。				
2. やむを得ない理由で遅刻した場合、30分以内であれば受験を認める。				
3. 試験開始の10分前に試験室に入室すること。				

研究志望調書

氏名	フリガナ	受験番号	※記入しないこと。
選抜の区分 (該当する一つを○で囲むこと)		一般選抜 ・ 社会人特別選抜 ・ 留学生特別選抜 ・ 福岡女子大学修士課程修了者特別選抜	
志望専攻 ※1	言語文化 社会科学		
これまでの研究課題とその内容			
志望の動機			

※1の欄は、該当する項目を○で囲むこと。

これからの研究課題とその内容

在職期間証明書

現住所 〒 _____

受験者氏名 _____

年 月 日

所属機関名（事業所名）	
職 種	
在職期間又は在職した期間	自 年 月 日～ 至 年 月 日

住所（所在地） 〒 _____

勤務先名 _____

職 名 _____

氏 名 _____ 印

